

まちづくり活動助成「“はじめの一步”部門」

まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	なるほど！ザ・ミュージアム
団体名	えがお届け隊
提案の活動を行う地域	名古屋市西区城西（弁天通商店街、最寄駅…浄心駅）
提案の内容	<p>(1) <u>クイズの作成経緯</u></p> <p>弁天通商店街には、地区住民から寄贈された生活用品を中心に、「暮らしの衣料 大沢屋」2階に「街かど資料館」があります。しかし収蔵品が増えて手狭になったこと、資料整理が行われていないこと、人員不足から平常は公開されていないことなどから、十分に利用されていない状態でした。</p> <p>そこで愛知学院大学地域連携センターとの連携の中で、私たち愛知学院大学学生有志が、収納品を整理して記録を作成し、展示室のレイアウト変更を行って、常設ブースと企画ブース、サロンスペースを作りました。これが平成26年度の活動です。この活動によって、資料館利用のためのハードの準備は一応できました。</p> <p>昨年度は、弁天通商店街の属する地区の小学校にお邪魔して、利用方法のヒヤリングも行いましたが、その中で、小学生を中心に利用を進める必要があると考えるようになりました。しかし、昭和時代の生活用品は、私たち大学生でも、用途や使い方がよくわからないものも多くあり、その説明を文章で示すだけでは、小学生の関心や理解を得ることは難しいと考えました。</p> <p>そこで、今年度は、学生有志がチームを組み、小学生を中心に資料館の利用度を高め、地区の歴史や日常生活への関心を高めていくための活動として、以下の活動をしたいと考えています。</p> <p>(2) <u>提 案</u></p> <p style="text-align: center;">なるほど！ザ・ミュージアム ～歴史クイズを用いたセルフガイドシステムづくり～</p> <p>○セルフガイドシステムとは</p> <p>案内人や教師などがいない状態で、美術館や博物館、自然公園などを見て回るなかで、展示物の見方や、学ぶべき内容を理解できるようにするシステムです。説明板もその一部となりますが、見学者がより積極的・能動的に学べるように、見学者になんらかのアクションを求める仕掛けを用意することによって、体験的な活動を生み出し、より深い学習ができるように配慮します。</p> <p>セルフガイドシステムも導入することによって、常時、ガイド等</p>

の人員を配置しなくても、一定の学習の機会を提供できることもセルフガイドシステムの有効性のひとつであり、案内人を置くことができない弁天通商店街の街かど資料館においては、有効な方法だと考えました。

○この事業で展開するセルフガイドシステムの仕掛け

昨年度の収納物の整理・分類の活動から、資料館の収納物の大半は、昭和40年代を中心とする昭和時代のものであり、高度成長期という、現代の私たちの生活の基盤が作られた時代のものであることがわかりました。収納物の大半は、現代の生活にもなくてはならないものでありながら、その形やしきみは現代のそれとは大きく異なり、平成時代に生まれた小学生には、見知らぬ形で使い方も分からないものが多いと思います。そこで「わからない」ことを活用し、クイズという形で、子供たちの好奇心を掻き立て、ヒントを与えることで、自ら考えながら知識を学ぶ仕掛けを作ります。

クイズはパネルの形で示し、クイズパネルには、ヒントプレートを組み込んでおいて、わからなければヒントプレートをめくって考えるようにします。また、クイズのテーマとなる展示物は触ったり操作したりしてよいものを選ぶことによって、小学生が実際に「いじる」ことで、より能動的な検討ができるようにします。

○作成、展示方法

数ある道具・資料を昨年度の分類をもとに、「昭和の暮らし」「家電」「エネルギー」等に分け、クイズに出す道具をそれぞれ絞りこみます。道具調査は商店街の方に聞き取り調査を行い、クイズに当時の暮らしのエピソードも加えます。

デザインは自分たちで考え、パネル作成は連携関係にある他大学学生と一緒に作成します。専門的な技術を要する部分については、業者に依頼し、長持ちがするしっかりとしたものを作ります。

(3) クイズパネル公開

クイズパネル完成後、クイズパネルの存在を知ってもらうため、小学校にも連絡をとり、資料館に来館していただくために地域の子供やその親を対象に、昨年、用意した資料館内のサロンスペースでワークショップを開催します。さらにクイズパネルの解説者に地域の高齢者もお呼びして、世代間交流を図っていきます。

資料館を運営している弁天通商店街振興組合は、毎月「弁天マルシェ」というイベントを開催しているので、このイベントと連動した資料館運営も検討し、特に今年度後半においては、何度か弁天マルシェと連動して開館します。

活動期間	平成27年4月～平成28年3月	助成金交付申請額	50,000万円
------	-----------------	----------	----------

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

<p>審査基準① 必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感を得られる活動か ・工事を伴う活動の場合、公益性、公共性のあるものか
<p>4つの視点を上記上から順に記入させていただきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ●この資料館には地域の住民の皆さんから寄贈された地域に根ざした資料が多く集まっており、かつ商店街が運営する地域のイベントに連携して企画・運営することが可能です。また現在この商店街内において高齢者向けのコミュニティの場がないのも課題であるところから、地域にゆかりのあるクイズなどを設けることで高齢者の共通の話題が生まれることが考えられるところから、地域にねざしたまちづくり活動であるといえると考えます。 ●この企画の主なターゲットは「子供（小学生中心）」とします。子供たちが「地域の歴史」をクイズ形式で学ぶなかで、地元の子供が地域を好きになり、ふるさと意識や地域に関する新たな発見が生まれることで街全体が住みよい環境になることが考えられます。 ●この活動は、弁天通商店街振興組合と愛知学院大学地域連携センター、愛知学院大学学生有志の活動から生まれました。昨年度から活動を重ねた結果、商店街との高い信頼を築くことができました。ボランティア仲間として、他大学の学生との連携も生まれています。今後、地域の小学校や、住民の皆さんとの関係は、セルフガイドシステムを用いた資料館活動を通してより深まると考えられますし、地域の高齢者の街かど史案内人への参加依頼等から、より広く深い連携が生まれると考えます。 ●昨年度の活動は、地元商店街の要請から始まっており、もともと地域のニーズから生まれています。昨年度は近隣小学校にヒヤリング調査を行いました。小学校からは子供たちが自主的に学べる工夫・空間があれば、価値が高い資料館になるという回答を得ていて、当企画が実行できれば小学校からのニーズにも応えることができます。地域の生活の歴史に関する活動であるため、より広い理解と共感を得ることができると考えます。 	
<p>審査基準② 独創性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
<ul style="list-style-type: none"> ●常時、案内人を配置できない資料館の活用方法としてセルフガイドシステムを導入すること、子供たちの「しらない」ことを活用して興味関心を高めるクイズ形式をとることが、この取組みの創意工夫であると私たちは考えています。 ●地域にゆかりがある道具・昔の写真があることから歴史の変化を実際の街を舞台に体感することができるのも大きな特徴です。 ●自ら学ぶセルフガイドシステムを用いること、クイズを用いること、高齢者にも参加していただき、高齢者だから知っていることを積極的に活用することで、高齢者を福祉の対象とするのではなく、地域になくてはならない「物知り、長老」としていることが、新しい視点と考えます。 	

審査基準③ 実現性		・提案内容が具体的になっているか ・自己資金を含め、活動内容や資金計画などは妥当か
時期	活動内容	
平成27年4月	●すでに資料館に収納されている資料を前提に、実際にクイズを作り、商店街イベントと連動して活用します。イベント展開に至るまでの活動は商店街に承認して頂いています。	
5月	●機械的な装置は必要なく、クイズやデザインは自ら行うため、原材料はパネルおよび、パネル等における専門的な加工だけであるため、大きな予算は必要ありません。自己資金は特にありませんが、交通費等はメンバー自らが負担します。	
6月	道具の調査	
7月		
8月	イベント企画の策定	
9月	パネルデザインの策定	
10月		
11月	パネル完成・イベント広報	
12月	イベント準備・開催	
平成28年1月	反省会	
2月	次年度へ向けての事業策定	
3月	報告書提出	

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

工 事 目 に ○	活動項目	内訳		金額 (円)
○	クイズパネル	印刷費	パネル A1 (材料費・加工費込) @ ¥7,500×6 枚	45,000
○	ワークシート等	印刷費	印刷代 A4 (チラシ、クイズ補助用紙) 1,000 部	3,000
○	消耗品	消耗品費	パネル展示をする際の材料費、固定用道具	2,000
計		都市センター助成金	50,000 円	
		自己資金(注)	0 円	
「提案したまちづくり活動に係る経費」のうち工事にかかる経費				0 円

(注) 自己資金には、他の助成金等を含めることはできません。

<p>審査基準④ 発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか
<ul style="list-style-type: none"> ●今年度、結成したチームは、今後も弁天通商店街を中心とする地域でのまちづくり活動を目的として、継続していきます。資料館の運営基盤となるセルフガイドシステムも継続的に拡大していく予定です。それによって、展示道具の魅力が伝わり今後も継続的な企画、集客が見込まれます。さらにより多くの人に資料館の存在を知ってもらうことで、資料館に足りない道具なども回収できるつながりが生まれます。 ●助成によってクイズパネルを中心とするセルフガイドシステムができれば、地域住民の参加が進み、地域のみなさんの地域への関心が高まります。資料館にはサロンスペースもありますので、地域の皆さんが、資料館を訪れることで、その存在を知れば、サロン活用による住民活動も進むものと考えます。商店街が運営する施設で企画事業を行うことで、商店街に人を呼び込む効果も考えられます。 	
<p>審査基準⑤ 活動実績 と主体性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか (団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。) ・具体的にどんな熱意を注いでいるか ・工事を伴う活動の場合、自ら主体となって工事を行い、継続的に維持管理する能力があるか
<p>※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。 ※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。 この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。</p> <p>団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●このチームは、今年4月に結成しましたが、チームメンバーは、前年度、弁天通商店街振興組合と連携して、街かど資料館の「資料整理・片づけ」「資料のデータベース化」「資料館レイアウトの提案」「資料館レイアウトの変更」「展示ユニット台の制作」を実施しています。 ●チームメンバーは学生ですが、基本的にボランティアとして活動しており、かつ、自主的に会合をもち、かつ積極的に提案を行い、認められた活動については、自分たちで頑張って実現しようとしています。 	

※第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とします。